

【国語・中2・「よりよい結論を導く討論をする」】①

育成を目指す資質・能力（単元）

（知識及び技能） 抽象的な概念を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできる。

(1)E

（思, 判, 表等） 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。

A才

（学びに向かう力等） 言葉が持つ価値を認識し、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

話し合いの様子を動画で記録し、それをを用いて話し合いを振り返り、よい点や改善点を見いだす。

【つかむ】

話し合いの見通しをもち、各自が提案する内容を準備する。

【追究する】

グループごとに、役割をローテーションしながら話し合いと振り返りを行う。

【まとめる】

よりよい話し合いの仕方について、学級全体で共有する。

事例の概要（全4時間）

- 「SDGsの取組を提案する」というテーマで、SDGsの17の目標から1つを選び、4名程度の班で話し合いを行う。
- 話し合いに向け、各自が調べ学習を行い、提案のための情報を集め、整理する。
- 話し合いは、参加者それぞれが司会者や提案者、発言者（2名）という役割で参加する。役割をローテーションする。

事例におけるICT活用の場面①

- 話し合いの提案者は、提案内容をまとめた資料をICT端末で示しながら話すようにする。提案内容を端的にまとめることや、聞き手により分かりやすく示すことに、ICT端末を活用する。

事例におけるICT活用の場面②

- 話し合いの様子を動画撮影する。話し合い後、動画を見て振り返り、話し合い全体のよい点や改善点を客観的に捉えたり自己評価したりすることにICT端末を活用する。

【国語・中2・「よりよい結論を導く討論をする」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



話し合いの場面では、提案者は提案用のICT端末を示しながら自分の考えを伝えるようにした。こうすることで、聞き手の反応を見ながら、資料を拡大したりスライドさせたりと工夫する様子が見られた。

話し合いは、グループごとに横並びで行った。この配置は感染症対応を考えたことではあったが、記録用のICT端末にグループ全員の顔が入り、音声もクリアに録音できるというよさもあった。

ICT端末を用いたことで、生徒からは「提案しやすかった」「話し合いに集中できた」といった感想が聞かれた。

【活用したソフトや機能：学習支援ソフト、写真や資料の提示、動画撮影】

【事例におけるICT活用の場面②】



振り返りの場面では、グループごとに記録用のICT端末の動画を見返した。振り返りの観点として、自分や友だちの話し方・聞き方について、話し合いのスムーズな進行についての2点とした。

生徒は動画を一時停止させたり巻き戻したりしながら、自分や友だち、話し合い全体について評価していた。生徒は、「ここで話し合いが止まってしまったので司会の私が発言すればよかった」や「よりよい結論を導くために、それぞれの立場からの意見を比べるとよかった」といったたくさんの気づきを挙げた。

その後、気づいたことを「話し合いのコツ」としてワークシートにまとめ、次の単元や他教科での学習に生かせるようにした。

【活用したソフトや機能：学習支援ソフト、動画再生】